

総合工学委員会原子力安全に関する分科会
社会のための継続的イノベーション検討小委員会
第25期・第4回議事録

令和3年12月17日

作成 山本 章夫

1. 日時 令和3年12月17日（金）15:00～16:30
2. 会場 遠隔会議 オンライン開催
3. 出席者 松岡委員長、越塚副委員長、小野、関村、矢川、宮野、白鳥、澤田、山本、（佐倉、吉村、中村欠席）
4. 配付資料
 - 資料1 社会のための継続的イノベーション検討小委員会第3回議事録
 - 資料2 社会のための継続的イノベーション報告案
 - 資料3 社会のための継続的イノベーション報告書のための議論用メモ
 - 資料4 藤井論文

5. 議事

1) 議事要旨案確認（資料1）

◎議事要旨について、コメントなしで承認された。

2) 社会のための継続的イノベーション報告案（資料2）についての議論

◎報告案についてについて意見交換を行った。以下に概要を示す。

- ・全体として、この小委員会でどのように議論を進めていくのかがやや不明確。不確かさの大きな現象をどのように扱うか、を中心に議論するのか。
- ・不確かさの大きな自然現象を扱うためにどのような(構造的な)課題があるのかがテーマになるのではないか。
- ・新知見が入ってくることにより、従来の安全対策や安全確保の考え方を変える必要が生じる場合がある。このような場合に、考え方を変えることが出来なかった(ついて行けなかった)ことが課題ではないか。
- ・原子力発電所に関する規制の話からいきなりスタートするのではなく、現在の学術界の議論を丁寧に見ていくべきではないか。

◎引き続き、議論の方向性について検討を続ける。本日の意見交換を踏まえて、内容の整理と更新を行う。

3) 社会のための継続的イノベーション報告書のための議論用メモ（資料3）についての議論

◎報告案についてについて意見交換を行った。以下に内容を示す。

- ・原子力・エネルギー・社会のどの部分を中心に検討するのか？
- ・題材がないと議論が進まないので、SMR を題材に議論し、全体に敷衍するという進め方をイメージしている。
- ・津波の知識が反映されなかった理由、(新技術の) 導入を阻害する要因について議論が必要。
- ・安全が確保されないという理由で新技術が社会に出なかったというのは結構ある。
- ・イノベーションは市場が決めるのであり、これが基本ではないか。
- ・議論のポイントは三つ。①システムのイノベーションを決める要因として、1F 事故以降の社会、技術の大きな変化を取り入れていくこと。カーボンニュートラルやエネルギーをどのように考えていくか。日本国内では議論は閉じない。全てがグローバル化されていることを常に念頭に置く必要がある。一方で社会においては意見の分断がある。②軽水炉の建設費用について、マーケットはネガティブに捉えている。クリティカルパスは技術、規制、社会、マーケット、どこなのか。③日本だけに特徴的な課題はないか。一方で世界共通の課題は何か、という視点も必要。
- ・危険と安全の間のグレーゾーンがあるという文化とそうでない文化がある、ということに切り込んでおく必要がある。
- ・技術の R&D だけでは不足であり、規制や金融もイノベーションを起こすシステムとしては必要。
- ・本提言の読者をよく想定する必要がある。原子力か、より広いのか。
- ◎今回の意見交換の内容を反映して内容の整理を進めるが、何回かはこのように自由に意見交換する形で進める。

4) 今後の進め方について

- ◎ 意見交換の内容に基づき、内容の整理と検討を進める。
- ◎ 次回は別途日程を調整する。

以上